刑法各論Ⅰ

科目ナンバリング　CRL-203
選択　　2単位

久保田　隆

1. 授業の概要（ねらい）

本講義では、殺人罪や窃盗罪、放火罪といった個別の犯罪類型の成立要件や、それらの犯罪の相互関係について学びます。春期の「刑法各論Ⅰ」では、主に、個人的法益に対する罪（財産犯を除く）、および、国家的法益に対する罪を扱います。

2. 授業の到達目標

①刑法各論の全体像を把握し、各犯罪類型を正確に位置づけることができる。
②各犯罪の成立要件と典型事例を学び、問題となる行為が何罪に当たるのかを理由とともに説明できる。
③各犯罪の区別に関する判例・学説を学び、限界事例を適切に処理できる。
④①～③を踏まえたうえで、特に時事問題の検討を通じて、社会を見る眼を養う。

3. 成績評価の方法および基準

【対面授業の場合】学期末試験（95%）および授業への貢献度（5%）によって評価します（授業への貢献度については、出席状況や授業態度、担当教員からの質問への応答などをもとに判断します）。
【オンライン授業の場合】学期末レポート（70%）およびリアクションペーパー（30%）によって評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書
井田良＝佐藤拓磨　『刑法各論〔第3版〕【新・論点講義シリーズ2】』　弘文堂
十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱　『刑法各論判例50!』　有斐閣
参考文献
井田良　『入門刑法学・各論〔第2版〕』　有斐閣
井田良　『講義刑法学・各論〔第2版〕』　有斐閣
亀井源太郎＝小池信太郎＝佐藤拓磨＝薮中悠＝和田俊憲　『刑法Ⅱ　各論』　日本評論社
西田典之＝橋爪隆〔補訂〕　『刑法各論〔第7版〕』　弘文堂
成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎〔編〕　『判例プラクティス刑法Ⅱ 各論』　信山社
佐伯仁志＝橋爪隆〔編〕　『刑法判例百選Ⅱ〔第8版〕』　有斐閣

5. 準備学修の内容

毎回、授業の最後に翌週の授業の内容を予告しますので、上記「教科書」（『刑法各論〔第3版〕【新・論点講義シリーズ2】』）の該当箇所を読んで予習してきてください。

さらに、授業後には、わからなかった点やもっと深く知りたいと思った点について、上記参考文献を使って復習するようにしてください。また、授業中に登場した重要な判例については、上記「教科書」（『刑法各論判例50!』）をはじめとする判例教材（「参考文献」掲載のものも含む）の該当箇所に目を通すと、より理解を深めることができます。

6. その他履修上の注意事項

・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」をすでに履修済み、または、並行して履修していることが望ましいです。
・授業では、毎回レジュメを配布します。
・六法を毎回必ず（!）持参してください（小型のもので構いません）。
・質問や相談は、授業後の休み時間に受け付けます（オンライン授業の場合は、リアクションペーパーに記載してください）。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション　刑法各論の全体像｜春期の内容の概観｜基本概念（保護法益など）
【第2回】　生命・身体に対する罪①　概説｜殺人罪｜「人」の意義（堕胎罪｜臓器移植法）
【第3回】　生命・身体に対する罪②　自殺関与罪・同意殺人罪｜殺人罪との区別
【第4回】　生命・身体に対する罪③　概説｜暴行罪と傷害罪｜傷害致死罪
【第5回】　生命・身体に対する罪④　過失致死傷罪｜自動車運転死傷行為処罰法（「あおり運転」問題を含む）
【第6回】　生命・身体に対する罪⑤　生命・身体に対する危険犯（遺棄罪）｜安楽死・尊厳死｜生命・身体に対する罪の総括
【第7回】　自由に対する罪①　概説｜脅迫罪｜強要罪｜逮捕・監禁罪
【第8回】　自由に対する罪②　略取・誘拐罪｜人身売買の罪
【第9回】　自由に対する罪③　強制わいせつ罪｜強制性交等罪（近時の法改正をめぐる動向を含む）
【第10回】　自由に対する罪④　住居侵入罪
【第11回】　人格的法益に対する罪　信書開封罪｜秘密漏示罪｜名誉毀損罪｜侮辱罪（SNSにおける誹謗中傷問題を含む）
【第12回】　信用・業務に対する罪　信用毀損罪｜業務妨害罪
【第13回】　国家的法益に対する罪①　概説｜国家の作用に対する罪（公務執行妨害罪｜司法作用に対する罪）
【第14回】　国家的法益に対する罪②　国家の作用に対する罪（汚職の罪）｜国家の存立に対する罪（内乱罪｜外患に関する罪｜国交に関する罪）
【第15回】　【対面授業の場合】春期のまとめと期末試験／【オンライン授業の場合】期末レポートの講評